



あおばファイナンシャルプランナーズ 代表

倉田春彦のFP通信

夏のご挨拶

「コロナ禍と成長機会」

for Executives



コロナ禍がはじまったころ、日本企業の内部留保の大きさが世界から注目されました。バブル経済只中の1990年頃に約百兆円だった日本企業の内部留保は、2019年には日本の実質GDPに匹敵する規模(約5百兆円)になっていたのです。しかし、コロナ禍下での最新の統計は財務省からまだ公表されていませんが(2021年4月末現在)、現下の企業の資金難は報じられている通りです。

一方、コロナ禍に対処するため、補償金や信用供与など大規模な財政出動を行った結果、長年懸案となってきた日本政府の債務残高はさらに増大し、2020年10月時点のGDP比で266%(米国の約2倍)に達すると国際通貨基金(IMF)の調査結果が先ごろ報じられました。

日本の資金力の大きさの証でもありますが、コロナ禍が社会に与えた影響の凄まじさも物語っています。同時に、立て続けに別の災害に襲われたら、それに耐える余力が国や企業にまだ残っているのかも心配になります。

ただでさえ諸外国に比べ多い政府の債務残高、そして社会保障費の難しいやり繰りをしている日本にとり、コロナ禍は「弱り目に祟り目」だったに違いありません。

いまは、立て続けに別の禍が起こらないことを祈るばかりですが、先々、社会保障を持続可能なものにするために、また、大きく膨らんだ政府債務の問題をソフトランディングさせるためには経済成長が欠かせません。

「フロンティア」

さて、日本のジェンダーギャップ指数の低さが報じられていますが、日本にとって女性の社会参加は単に男女平等というだけでなく、いまや経済成長のためにも戦略上欠かせないフロンティア(成長分野)だといわれています。

理由のひとつは、多くの女性の能力が家庭や低賃金の職場に埋もれている点、もうひとつはミスマッチングです。ミスマッチングとは、人口の半分を女性が占めるうえ、

需要(消費)の側で発言力が高いのは女性なのに、供給側(ビジネス)で重要な決定を行っているのは男性が中心だという点です。そして、こうして埋もれている女性のパワーは、経済成長のフロンティアだというわけです。

AI、自動運転、水素、脱炭素など、期待がかかるフロンティアはほかにもあります。もちろん、そうした大きなテーマだけではありません。企業が自社の成長分野を見つけ、個人なら自分が活躍できる場を見つけるといった取り組みも重要です。実際、コロナ禍で進むリモート会議の浸透をてこに、従来手の届かなかった地域や顧客層に商圏を広げる会社、コロナ禍でできた時間をかねて胸に抱いていたアイデアの商品化に向ける会社など、コロナ禍を逆手に機会をつかもうとする会社は、フロンティアスピリットに溢れる中小企業には多いといわれます。

「次への備え」

コロナ禍が落ち着くまでは他には何も起こらない、ということはありません。また、世界中を襲う禍だけがリスクではありません。フロンティアの開拓にまい進するためにも、今こそ万一の備えを疎かにせず、手を打って参りましょう。

(出典)「年次別法人企業統計調査(令和元年度)」(財務省)、「政府債務残高 GDP比突出 日本266%、米の2倍」(2021年12月25日、日本経済新聞)「共同参画」2020年3・4月号(内閣府男女共同参画局)



フリーコールまたはQRコードをスキャンの上、HPのフォームよりお気軽にお問い合わせください。

あおばファイナンシャルプランナーズ 0120-922-144

受付時間/平日9:00~18:00



ウイズ・コロナ 嗜好品

嗜好品と聞いて何を思い浮かべますか。コーヒーやお酒、チョコレートという方もいらっしゃると思います。

嗜好品を辞書で調べると「個人の好みを満足させ、味覚・嗅覚・視覚に快感を与える飲食物の総称。生命維持に必要な栄養物と区別。清涼飲料・茶・酒類・菓子など」（『日本語大辞典』講談社）とあります。簡単にいうと、その人の好みによって楽しむ飲食物といったところでしょうか。

長引くコロナ禍に、個人も企業も政府だって皆たまったものではありませんね。そこで今回は、そんな嗜好品にまつわるお話をご紹介します。ぜひ聞いてみたいと思います。

「コーヒー」

コーヒーの発祥には諸説あり、有名なのは「カルディという名の山羊飼いが、山羊がコーヒーの実を食べて興奮しているのを見つけた」というもの。ほかに「旅人が、旅先で、陽気にさえずる小鳥がついばんでいた実を食べてみたところ自分も元気が湧いてきた」などの説もあります。

やがてコーヒーが世界に広まると、18世紀のヨーロッパではコーヒー依存症が社会問題になります。これを題材にした喜劇「コーヒー・カンタータ」に曲を提供したのがバッハです。ネットで検索すると曲を聴くことができます。どこかのお店で耳にされたことがあるかもしれません。自宅でカフェの気分を味わうのにいかがでしょうか。

「ウイスキー」

コロナ禍がはじまった頃、消毒用アルコールの品不足から強いお酒までが品薄になりました。昔のアイランドやスコットランドでは、消毒や痛みと闘うために修道士た

ちによってウイスキーが使われていたそうですから、ウイスキーの語源が「命の水」の意のゲール語「uisge beatha（ウースカ・ベアハ）」だというのは合点がいきますね。

ウイスキーは、モルト、グレーン、アイリッシュ、スコッチ、バーボン、テネシー、カナディアン、ジャパニーズなど製法や原材料のバリエーションが豊富なため、香りのバリエーションも豊かです。その香りをたのしむ愛好家も少なくなく、なかには健康上の理由でお酒は飲めないけれど、グラスで香りをたのしむという方もいらっしゃいます。

「お菓子」

日本のおやつは1日2食が一般的だった江戸時代に、町民たちが仕事の合間に間食を摂ったことが始まりだといわれます。その時間が八つ時（午後2～4時頃）だったことから、お八つと呼ばれるようになったのだとか。

おやつには空腹を満たす役割もありますが、なんといっても気分転換になります。また、家庭でもオンラインでも、おやつをはさめば会話がはずみますね。

リラックスや気分転換を助けてくれる嗜好品を上手に使って、コロナ禍をもうひと踏ん張りといきたいですね。（カフェイン、アルコール、糖分の摂り過ぎにはご注意ください）



こんな時はご連絡ください

適切なサービスや情報を提供し、皆さまをお守りするために、次のようなときは私にご連絡ください。

- 各種手続きや保障内容の見直しなどの相談や問い合わせ
 - 契約内容・保障内容の確認・見直し
 - 老後資金や相続に関する相談
 - 医療費や介護費用の心配
 - 保険金や給付金の請求について
 - 入退院や手術の予定
 - 災害や事故などに遭遇されたとき

- 身近な方のご結婚・ご出産・入進学
- 転居・転職・起業の予定
- 事業拡大や事業承継の計画（法人様）
- 福利厚生制度・役員の保障の相談（法人様）
- 紹介して欲しい人・提供して欲しい情報がある

● その他

疑問や不安に感じていること、近況なども気軽にお聞かせいただければ幸いです。また、私がお役に立てそうな方がいらっしゃいましたらぜひご紹介ください。

あおばファイナンシャルプランナーズ

Haruhiko Kurata
倉田 春彦

info@aobafp.jp

(事務局)

〒227-0062

横浜市青葉区奈良4-1-1-F608

フリーダイヤル 0120-922-114 (平日9:00 - 18:00)

aoba fp
financial and life consulting

